

未来の東京に向けた水辺整備のあり方検討会

隅田川等における新たな水辺整備のあり方（次の展開にむけて）

第2回検討会2022.10.28

「未来の隅田川」に向けて

隅田川等の水辺空間では、下流域を中心に水辺と街の連続性・回遊性を高め、水辺のにぎわいを生む取組が進んできました。

これまでの取組やポストコロナを見据えた社会情勢の変化等を踏まえ、水辺のオープンスペースが持つ『ゆとりや潤い』を生かした今後の水辺整備のあり方について検討します。

「未来の東京」戦略掲載案件 戦略13水と緑溢れる東京戦略
【ゆとりと潤いにあふれる水辺空間の整備】

「隅田川等の水辺整備のあり方」の今後の方向性

隅田川を中心とした水辺空間整備の課題

①これまでの取組からの課題

- 上流域への拠点の設定/下流拠点のさらなるにぎわい強化
- 舟運やテラス整備等により水辺動線の強化
- まちづくりとの連携/恒常的な利活用のしくみの構築
- 「場の質」「動線」「仕組み」の更なる展開

②社会情勢の変化からの課題

- 【ポストコロナ】オープン化された公共空間の活用
サードプレイスを求めるライフスタイル
- 【防災】気候変動への対応や流域治水等の災害に強いまちづくり
- 【健康志向】高齢化社会に向かう中での健康志向の高まり

今後の方向性のポイント

- ✓ 水辺のオープンスペースが持つゆとりと潤いを東京の水辺の価値として捉え、地域の魅力やまちづくりにつながる水辺空間創出を目指す
- ✓ 水辺の利活用が地域の防災に寄与することを意識し、安全と魅力の両面から水辺空間の活用を目指す
- ✓ 上下流の地域特性や利用者属性の違い等を踏まえ、地域の個性を生かした水辺空間の創出や使い方を旨す
- ✓ 水陸の交点に加え、荒川やベイエリアとの繋がりを踏まえた拠点と、それらを繋ぐ水路や陸路のネットワークの構築を目指す
- ✓ 水辺の利活用を進めていくために、ハードとソフトの官民連携や、ウォーキング等の健康増進や公園のような居心地の良い空間創出等を目指す

今後の「あり方」の方向性のまとめ

隅田川のゆとり・うるおい・にぎわいを
『川の軸』として、つなぎ、街へ拡げる

隅田川等の水辺整備のあり方『川の軸』（仮称）

水辺のゆとり・うるおい・にぎわいをつなぐ

- 「点」上下流に『水辺の拠点』を設定し、重点的に施策を実施
- 「線」『川の軸』を上流に展開し、動線・ネットワークを強化
- 「面」拠点等での水辺の利活用を促し、水辺の魅力を拡げていく

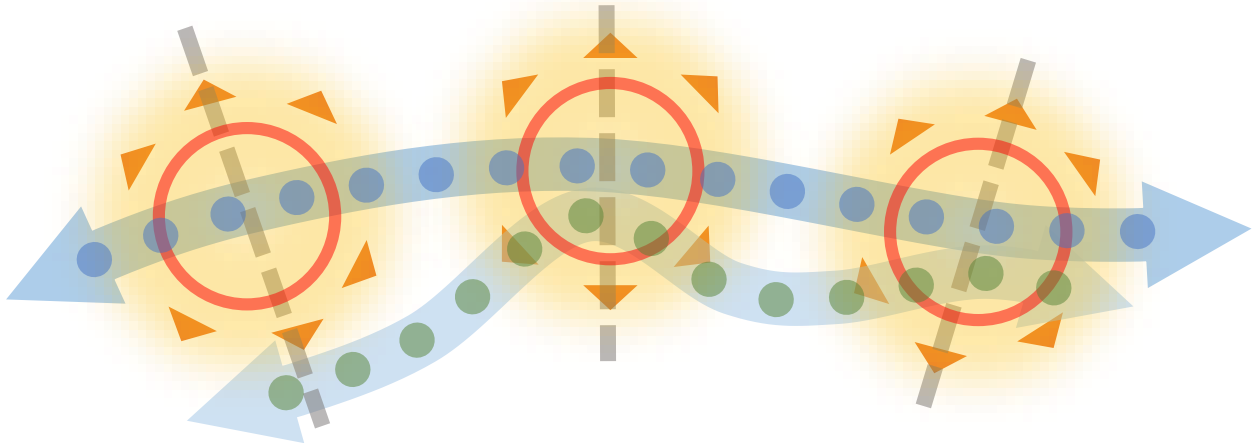


イメージ：「都市づくりのグランドデザイン」より

隅田川等の水辺整備のあり方『川の軸』(仮称)

水辺のゆとり・うるおい・にぎわいをつなぐ

- 「点」 『水辺の拠点』を設定し、重点的に施策を実施
- 「線」 『川の軸』を展開し、動線・ネットワークを強化
- 「面」 『水辺を利活用』を進め、水辺の魅力をまちに拡げる

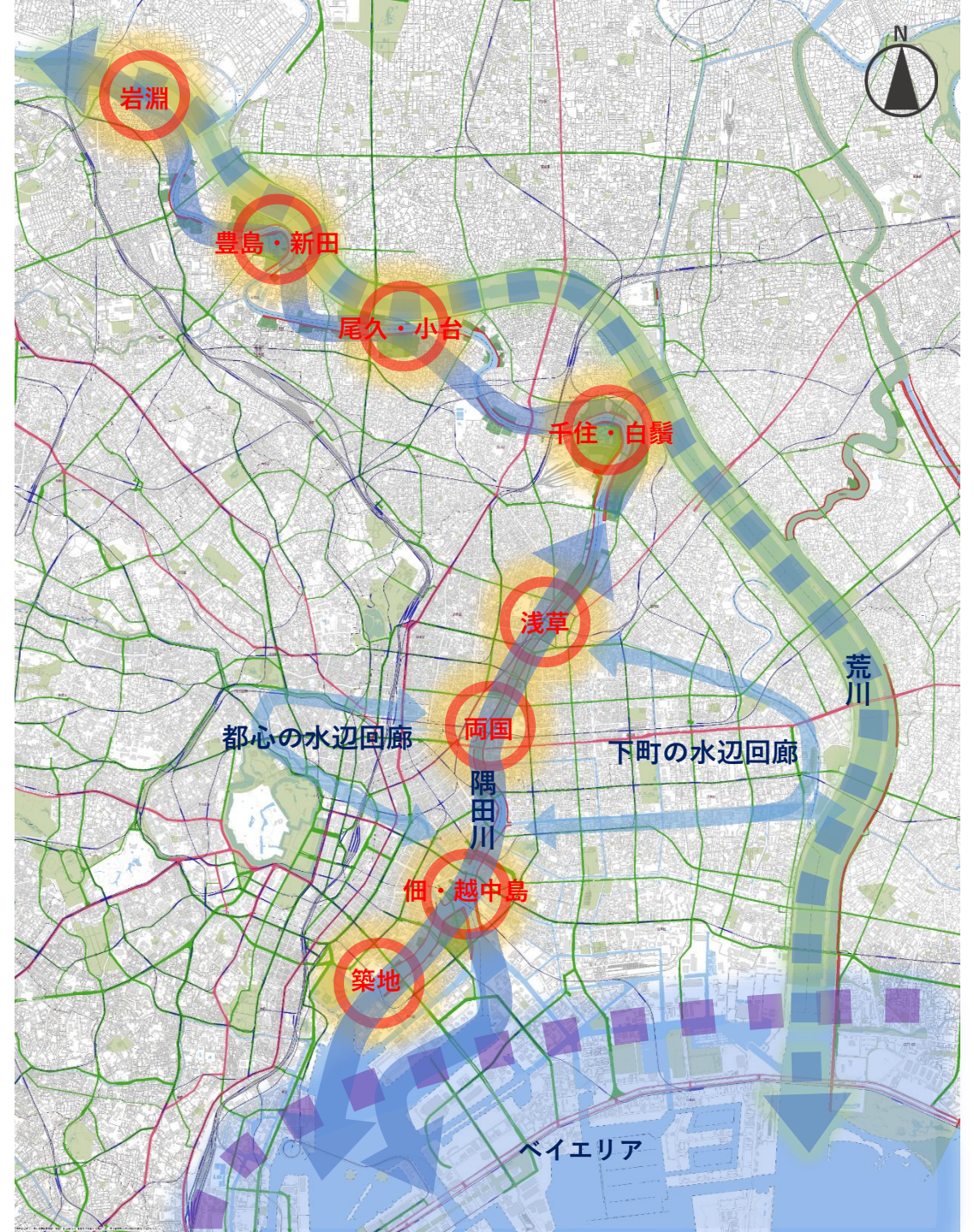


水辺の拠点とネットワークの視点

沿川の街と河川のつながりを生み出していくために、開発や観光施設等の地域の個性を活かした水辺の拠点を設定する。

それに加え、ジョギングやサイクリング等の健康・スポーツの利用や防災・環境保全等の地域の価値を高める取組に配慮し、荒川やベイエリアを含めた隅田川を中心とした水辺空間全体の連携を目指していく。

- 視点①：沿川の街と河川のつながりや地域資源等
- 視点②：道路や舟運等の交通結節（街道や防災船着場等）
- 視点③：安全で快適な利用を行う基盤（スーパー堤防等）
- 視点④：荒川やベイエリアとのつながり



隅田川等の水辺整備のあり方『川の軸』（仮称） 水辺の拠点とネットワークによる取組

方向性①「点」

『水辺の拠点』を設定し、重点的に施策を実施

歩きたくなる居心地のよい水辺空間の創出

- 上流における新たな重点施策エリアの設定
- 水辺の動線強化の更なる展開（照明・連続化・スロープ）
- ウォーカブルな水辺空間の創出（歩きやすい・居心地の良い空間）等

方向性②「線」

『川の軸』を展開し、動線・ネットワークを強化

まちづくりと連携した河川整備

- 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の水辺整備
- 地域の交流や街の活性化につながる「まちづくり」との連携 等

新たな事業展開・連携

- 隅田川・荒川のネットワーク構築（ウォーキング、ランニング、サイクリング、舟運など）
- 健康増進や防災意識向上、他河川への展開等の事業連携 等

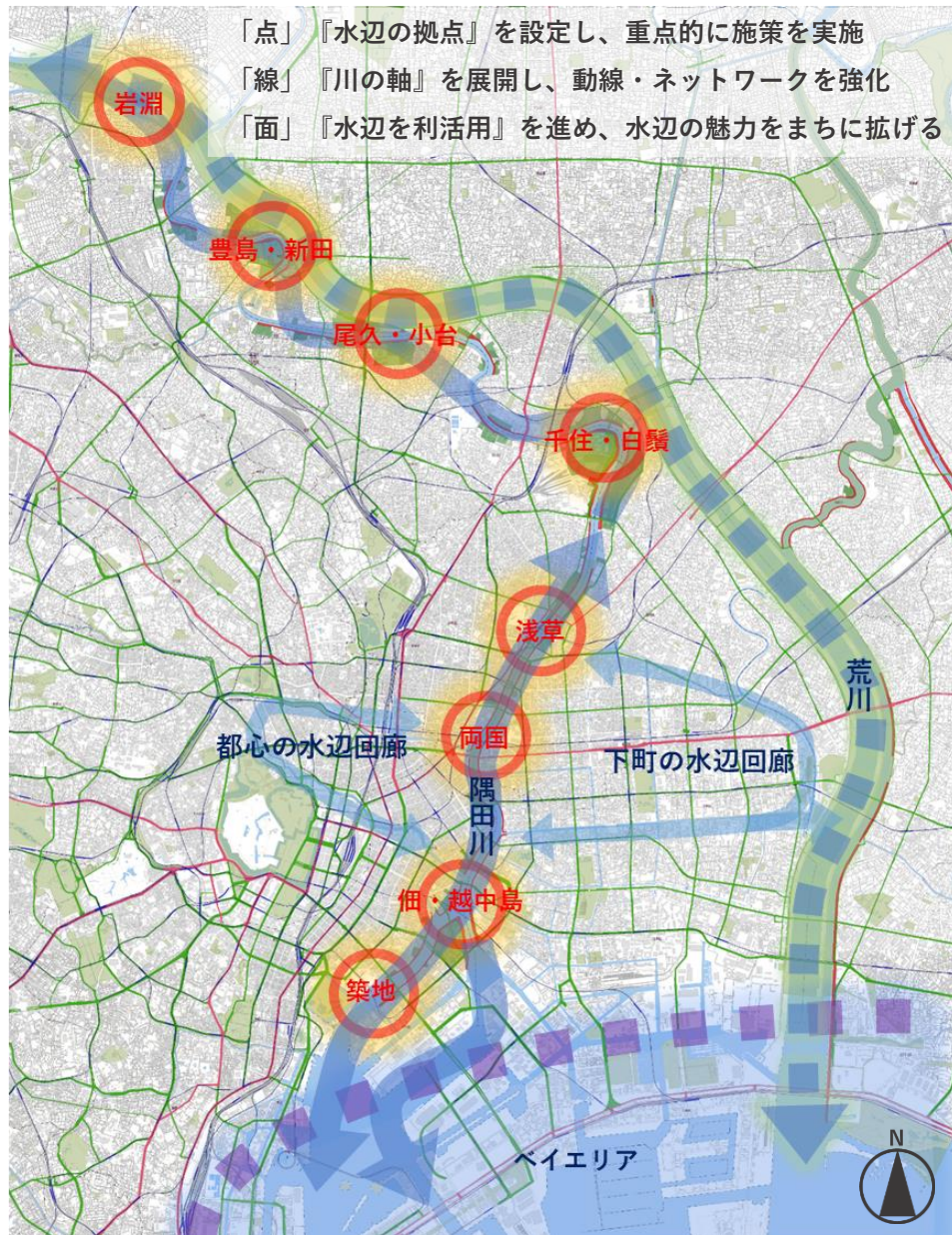
方向性③「面」

『水辺を利活用』を進め、水辺の魅力をまちに広げる

恒常的な利活用への仕組みづくり

- 特例占用の更なる活用による水辺のにぎわい創出
- 多様な主体の活動連携や情報発信強化 等

隅田川等の水辺整備のあり方『川の軸』（仮称）



水辺のゆとり・うるおい・にぎわいをつなぐ

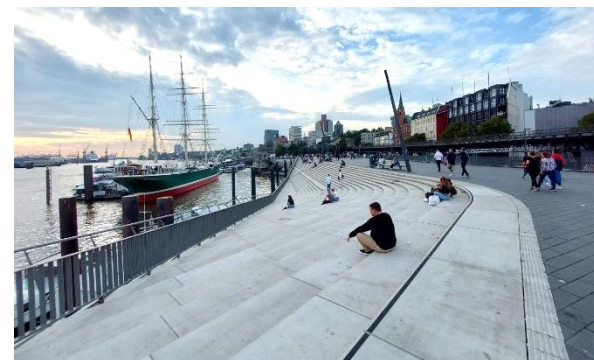
歩きたくなる居心地のよい水辺空間の創出

- 新たな重点施策エリアの設定
- 動線強化の更なる展開（照明、テラス連続化、スロープ等）
- ウォークブルな水辺空間の創出 等



まちづくりと連携した河川整備の推進

- 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の水辺整備
- 地域の交流や街の活性化につながるまちづくりとの連携 等



新たな事業展開・連携→第3回以降検討

- 隅田川・荒川の舟運等ネットワーク構築
- 健康増進や防災意識向上、他河川への展開等の事業連携 等

恒常的な利活用への仕組みづくり→第3回以降検討

- 特例占用の更なる活用による水辺のにぎわい創出
- 多様な主体の活動連携や情報発信強化 等



歩きたくなる居心地よい水辺空間の創出

隅田川全域でまちと連携した水辺のウォーカブルネットワークを創出する

□ 上流における新たな重点施策エリアの設定（8つの水辺拠点）

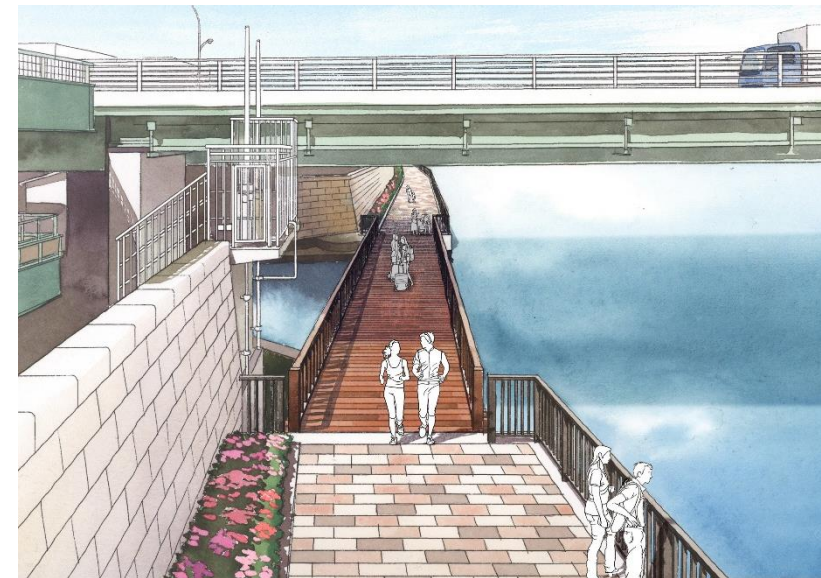
→ [築地] [佃・越中島] [両国] [浅草] [千住・白鬚] [尾久・小台] [新田・豊島] [岩淵]

□ 水辺の動線強化の更なる展開（照明・連続化・スロープ等）

→ 動線強化施策の下流の拡充と上流への展開

□ ウォーカブルな水辺空間の創出（歩きやすい・居心地の良い空間）

→ 老朽化した舗装の再修景、段差解消、緑化の充実、ベンチ、サイン等



まちづくりと連携した河川整備の推進

まちづくりの機会等を捉えた官民連携による水辺の拠点整備を推進する

□ 再開発や公園整備等と連携したスーパー堤防等の水辺整備

- 再開発や都市再生等のまちづくりと連携した河川事業（築地、両国、浅草、千住等）
- 荒川高規格堤防や沿川公園整備と連携した河川整備（小台、新田、町屋等） 等

□ 地域の交流や街の活性化につながる「まちづくり」との連携

- 沿川地域のまちづくりビジョン等の都市計画・景観誘導との連携（浅草、日本橋等）
- 地域や民間による利活用と連携した河川整備や河川施設等の活用（越中島、江東内部河川等） 等

